

浜の活力再生プラン  
(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	佐伯地区地域水産業再生委員会 蒲江地区作業部会
代表者名	蒲江地区作業部会会長 森崎 真吾 (大分県漁業協同組合 蒲江地区運営委員長)

再生委員会の構成員	大分県漁業協同組合、佐伯市、大分県、大分県南部漁業青年協議会、佐伯地区漁協女性部連絡協議会
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	蒲江地区 魚類養殖4名、貝類養殖9名、一本釣り56名、潜水23名、刺網11名、籠11名、小型底曳網2名、延縄3名、大型定置網2名、小型定置網4名、中型旋網1名、小型旋網2名(兼業による重複あり。重複を排除した実数は112名)
-------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>佐伯市蒲江地区は大分県最南端豊後水道入り口部に位置し、南東部に細長く85kmにおよぶりアス式海岸によって形成され、外界の影響を比較的受けにくい漁場を利用して漁船漁業、魚類、貝類養殖業が盛んに行われている。当地区では、まき網漁業、ブリ、カンパチ、タイ等を中心とした養殖漁業、大型・小型定置網漁業を主体に、一本釣り、潜水、刺し網、延縄漁業が営まれている。地区内の水産業を取り巻く環境は依然として厳しく、漁船漁業では海水温の上昇による回遊魚の来遊時期の変動や藻場の消失、漁獲量の減少が年々進んでおり、それに燃油高騰が続いているため経営は非常に厳しい状況である。また魚類養殖業においても魚価の伸び悩みや資材・餌料の高騰により経営は大変厳しい状況であり、人材の確保も深刻な問題になりつつある。さらに近年、毎年のように発生する赤潮・貝毒プランクトンに対する対策も急務である。</p>
--

## (2) その他の関連する現状等

<p>地区内の水産業を取り巻く環境は、上記に加え、水産資源の減少や高齢化・後継者不足などもあり、漁家経営は非常に厳しい状況である。特に藻場の消失は水産資源減少の一因であると考えられているため、水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により藻場の回復を図っている。</p> <p>平成27年度に東九州自動車道が開通し、蒲江ICの入り口近くには、平成26年5月に「かまえインターパーク」が開設され、当地訪問者の増加による消費増が期待されたが、近隣地区にある「大分県マリンカルチャーセンター」が休館となったことが影響して、期待ほど消費は増加していない。</p>
--

## 3 活性化の取組方針

## (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

<p>漁船漁業者が主体になって実施してきた種苗放流等の取組みについては、放流魚が成長し漁獲されており一定の成果をあげているが、潜水漁業者が実施してきた磯焼け対策については持続的な取組みが必要であり今後も継続して行う必要がある。直販体制の確立はイベント単位での活動となっており見直しを検討する。全体として浜の活力を再生するには至っていない。</p>
---

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域全体の人口減少に伴い漁業者も減少している。魅力ある漁業の町として再生させるために、前回プランでの取り組みを通じて得られた成果や課題等を踏まえつつ、徹底した品質管理等による魚価向上、資源の維持・増大等につながる資源管理や漁場保全等に努め漁業収入向上を図るとともに、減速航行や休漁等による漁業コスト削減に努める。また、国や県が支援する各事業を有効に活用し漁家経営の安定を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

対象魚種や採捕方法等に応じて効果ある資源管理を可能にするため、魚種漁法毎に漁獲状況（量、サイズ、時期等）の変動等を踏まえつつ、漁業法、県漁業調整規則、海区調整委員会指示、資源管理計画、さらには漁業者間による自主的な管理等を適切に組み合わせて効果的な資源管理に取り組むこととする。特に地区内漁業者による種苗放流が計画されているカサゴやヒラメなどに関しては、放流効果を高めるため、体長制限等の資源管理に積極的に取り組むこととする。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和元年度）（2019年度）所得 3.60%向上

漁業収入向上のための取組	<p>①魚類養殖：赤潮対策による赤字解消、道の駅かまえ、かまえインターパーク、佐伯、鶴見の魚市場等での販売促進活動</p> <p>・例年、赤潮などにより大きな赤字が問題となっている。このため、定期的な漁場の観察や餌止め、漁場の避難等の対策を行うことで赤潮被害を軽減する。そのほか、近隣市場やかまえ道の駅での直販イベント等、地元水揚げの養殖ブリ・ヒラメ・カンパチ等の販売促進活動を行う。</p> <p>②イワガキ・ヒオウギガイ養殖：蒲江祭りや東九州大漁祭で実施する直販イベントによる販売量増加と単価向上</p> <p>イワガキ・ヒオウギガイの直販イベントにおける販売価格は市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、直販比率を高めることで平均単価の向上を図る。また、冷凍品の国内販売、海外輸出向けの包装方法・パッケージ改良を進め、5年間で2.0tの冷凍品の出荷を目標とする。</p> <p>③1本釣り漁業：主要魚種アオリイカの活魚出荷</p> <p>主要魚種であるアオリイカは活魚で状態の良いものは鮮魚の約4倍の高単価で取引されるため、今後は生け簀の大型化およびプロアの活用により、活魚出荷の割合を増加させる。また、産卵床の設置、産卵期における親イカ・小イカの保護、藻場保全活動を行い、資源増大を図る。</p> <p>④潜水：藻場保全活動による藻場の回復と漁獲量向上</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により、毎年2haの藻場面積の増加を図る。あわせて、食害生物の駆除を定期的に行い藻場の保全を図る。</p> <p>⑤刺網：未利用魚の利用、主要魚種カワハギの鮮度保持</p> <p>藻場の食害種であるブダイ、アイゴ、タカノハダイ、イスズミ等は蒲江地区では低単価で取り扱われるため、これらの魚種を狙った操業はほとんど行われていない。近年、これらの未利用魚の新たな調理方法（フィッシュ&amp;チップス等）が開発され、海外輸出（台湾、シンガポール）等の新たな販路も見つかった。従って、今後も販路拡大等に努め、これらの未利用魚の販売量を増加させる。この活動は藻場の回復効果も期待できる。</p> <p>主要魚種であるカワハギについて、活魚や血抜きが行われた鮮魚は、出荷時に適切な処理が施されていない魚（野締め等）の約2倍の高単価で取引さ</p>
--------------	--

れる。今後は活魚出荷や血抜きなどを行い、高単価魚の割合の増加を図る。

⑥籠：主要魚種マダコの漁獲サイズの向上

主要魚種であるマダコについて、1kgを超えるマダコは、1kgに満たないマダコの約2倍の高単価で取引される。今後は1kg以上のマダコを積極的に漁獲し、1kg未満の個体は水揚げせずに放流することで、全体に占める高単価魚の割合を向上させる。また、近年は籠の餌に使う貝類の資源が減少しているため、ロープに付いた貝類の積極的な利用や貝類養殖時に発生する未利用貝の有効利用を検討し、漁獲量向上を目指す。

⑦小型底曳き網：主要魚種クルマエビの種苗放流、漁獲物の鮮度保持

主要魚種であるクルマエビは佐伯管内の漁協3支店（蒲江、米水津、上入津支店）で毎年約50万尾種苗放流を行う。放流後の生存率をより高めるため、給餌による中間育成と食害対策のための放流点周辺の囲い網設置を行い、資源の増大を図る。漁業者は小型エビを自主的に再放流し、資源保護を行う。

コウイカ、コブイカ、カレイ類等の魚種については氷の敷き詰めや血抜きなどを行い、鮮度保持に努める。

⑧延縄：主要魚種エソの鮮度保持、出荷時期の調整、すり身の消費拡大、販路開拓

エソは8月と12月は需要が高まることから、それ以外の月の約3倍の高単価で取引される。エソは氷の敷き詰め等の鮮度保持や出荷時期の調整が単価向上を図る上で重要である。また、エソはほとんどがすり身で利用されるため、すり身の消費拡大、販路開拓を行うことで間接的にエソの単価が向上すると考えられる。従って、漁獲物の鮮度保持や出荷時期の調整、すり身の魚食普及や販路開拓を行うことで高単価魚の割合を向上させる。

⑨大型定置：アジ類の鮮度保持、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷

主要魚種のアジ類（マルアジ、豆アジ等を含む）は地方の人口減少などにより地方市場での需要が低下し、単価が低迷している。また、入網したアジの身擦れはさらなる単価低下の要因となっている。アジ類は全長25cm～40cmの中～大型のものは、全長15cm程度のアジ類の約5倍で取引されることがある。また、全長10cm程度のアジ類は、釣り餌用として活魚で販売することで通常の4～5倍の高単価となる。従って、今後は入網した魚をすぐに漁獲し身擦れを防ぐとともに、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷等の取組を複合的にを行い、平均単価を向上させる。

⑩小型定置：主要魚種アジ類、アオリイカ、キビナゴの鮮度保持・販路拡大

主要魚種のアジ類、アオリイカ、キビナゴは、地方の人口減少などにより地方市場での需要が低下し、単価が低迷している。これらの魚種は需要と供給のバランスにより単価が大きく上下する。また、定置網内に滞留した魚は身擦れにより品質が低下しやすいため、他の漁業種と比較して漁獲物の平均単価が低い傾向にある。従って、今後は取引単価の高い市場を開拓するとともに、入網した魚をすぐに漁獲することで身擦れを防ぎ、単価向上を目指す。

⑪中型旋網：主要魚種キビナゴ、アジ類、イワシ類の販路拡大、出荷サイズの最適化、鮮度保持

主要魚種のキビナゴ、イワシ類、アジ類は、地方の人口減少などにより地方市場での需要が低下し、単価が低迷している。これらの魚種は需要と供給のバランスにより単価が大きく上下する。また、需要に合わせたサイズを高

	<p>鮮度で出荷することで単価が高くなる。従って今後は取引単価の高い市場を開拓するとともに、出荷サイズの最適化、氷の敷き詰め等を徹底的に行い、平均単価を向上させる。</p> <p>⑫小型旋網：主要魚種キビナゴの販路拡大、出荷サイズの大形化、鮮度保持          主要魚種のキビナゴは、地方の人口減少などにより地方市場での需要が低下し、単価が低迷している。キビナゴは需要と供給のバランスにより単価が大きく上下する。また、大型魚ほど単価が高い傾向にある。従って、今後は取引単価の高い市場を開拓するとともに、出荷サイズの大形化を図り、氷の敷き詰め等による鮮度保持を徹底的に行う。これにより、平均単価を向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>◆燃油高騰対策に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業</p>

2年目（令和2年度）（2020年度）所得 6.99%向上

漁業収入向上のための取組	<p>①魚類養殖：赤潮対策による赤字解消、道の駅かまえ、かまえインターパーク、佐伯、鶴見の魚市場等での販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な漁場の観察や餌止め、漁場の避難等の対策により赤潮被害を軽減する。また、近隣市場やかまえ道の駅での直販イベント等、地元水揚げの養殖ブリ・ヒラメ・カンパチ等の販売促進活動を継続する。</li> </ul> <p>②イワガキ・ヒオウギガイ養殖：蒲江祭りや東九州大漁祭で実施する直販イベントによる販売量増加と単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高単価で販売できる直販イベントに出荷するイワガキの割合を向上させる。</li> <li>・冷凍品を出荷する。</li> </ul> <p>③1本釣り漁業：主要魚種アオリイカの活魚出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単価が高い活魚出荷の割合を向上させる。</li> </ul> <p>④潜水：藻場保全活動による藻場の回復と漁獲量向上</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により、毎年2haの藻場面積の増加を図る。あわせて、食害生物の駆除を定期的に行い藻場の保全を図る。</p> <p>⑤刺網：未利用魚の利用、主要魚種カワハギの鮮度保持</p> <p>ブダイ、アイゴ、タカノハダイ、イスズミ等の未利用魚を販路開拓等により販売する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鮮度保持されたカワハギの高単価魚の出荷割合を向上させる。</li> </ul> <p>⑥籠：主要魚種マダコの漁獲サイズの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単価が高い1kg以上のマダコの出荷割合を向上させる。</li> </ul> <p>⑦小型底曳き網：主要魚種クルマエビの種苗放流</p> <p>クルマエビを佐伯管内3支店（蒲江、米水津、上入津支店）で50万尾放流</p>
--------------	---

	<p>する。放流後の生存率をより高めるため、給餌による中間育成と食害対策のための放流点周辺の囲い網設置を行い、資源の増大を図る。</p> <p>⑧延縄：主要魚種エソの鮮度保持、出荷時期の調整、すり身の消費拡大、販路開拓 エソの鮮度保持や出荷時期の調整による高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑨大型定置：アジ類の鮮度保持、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷 身擦れ防止、出荷サイズの最適化、活魚出荷等により、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑩小型定置：主要魚種アジ類、アオリイカ、キビナゴの鮮度保持・販路拡大 身擦れ防止、鮮度保持等により、アジ類、アオリイカ、キビナゴの単価を向上させる。</p> <p>⑪中型旋網：主要魚種キビナゴ、アジ類、イワシ類の販路拡大、出荷サイズの最適化、鮮度保持 出荷サイズの最適化、鮮度保持等により、キビナゴ、イワシ類、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑫小型旋網：主要魚種キビナゴの販路拡大、出荷サイズの大型化、鮮度保持 販路拡大、出荷サイズの大型化等により、キビナゴの単価を向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>◆燃油高騰対策に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。</li> </ul>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業

### 3年目（令和3年度）（2021年度）所得10.38%向上

漁業収入向上のための取組	<p>①魚類養殖：赤潮対策による赤字解消、道の駅かまえ、かまえインターパーク、佐伯、鶴見の魚市場等での販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な漁場の観察や餌止め、漁場の避難等の対策により赤潮被害を軽減する。また、近隣市場やかまえ道の駅での直販イベント等、地元水揚げの養殖ブリ・ヒラメ・カンパチ等の販売促進活動を継続する。</li> </ul> <p>②イワガキ・ヒオウギガイ養殖：蒲江祭りや東九州大漁祭で実施する直販イベントによる販売量増加と単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高単価で販売できる直販イベントに出荷するイワガキの割合を向上させる。</li> <li>・冷凍品を出荷する。</li> </ul> <p>③1本釣り漁業：主要魚種アオリイカの活魚出荷 単価が高い活魚出荷の割合を向上させる。</p> <p>④潜水：藻場保全活動による藻場の回復と漁獲量向上 水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により、毎年2haの藻場面積の増加を図る。あわせて、食害生物の駆除を定期的に行い藻場の</p>
--------------	---

	<p>保全を図る。</p> <p>⑤刺網：未利用魚の利用、主要魚種カワハギの鮮度保持 ブダイ、アイゴ、タカノハダイ、イスズミ等の未利用魚を販路開拓等により販売する。 鮮度保持されたカワハギの高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑥籠：主要魚種マダコの漁獲サイズの向上 単価が高い1kg以上のマダコの出荷割合を向上させる。</p> <p>⑦小型底曳き網：主要魚種クルマエビの種苗放流 クルマエビを佐伯管内3支店（蒲江、米水津、上入津支店）で50万尾放流する。放流後の生存率をより高めるため、給餌による中間育成と食害対策のための放流点周辺の囲い網設置を行い、資源の増大を図る。</p> <p>⑧延縄：主要魚種エソの鮮度保持、出荷時期の調整、すり身の消費拡大、販路開拓 エソの鮮度保持や出荷時期の調整による高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑨大型定置：アジ類の鮮度保持、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷 身擦れ防止、出荷サイズの最適化、活魚出荷等により、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑩小型定置：主要魚種アジ類、アオリイカ、キビナゴの鮮度保持・販路拡大 身擦れ防止、鮮度保持等により、アジ類、アオリイカ、キビナゴの単価を向上させる。</p> <p>⑪中型旋網：主要魚種キビナゴ、アジ類、イワシ類の販路拡大、出荷サイズの最適化、鮮度保持 出荷サイズの最適化、鮮度保持等により、キビナゴ、イワシ類、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑫小型旋網：主要魚種キビナゴの販路拡大、出荷サイズの大型化、鮮度保持 販路拡大、出荷サイズの大型化等により、キビナゴの単価を向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>◆燃油高騰対策に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業</p>

4年目（令和4年度）（2022年度）所得13.76%向上

漁業収入向上のための取組	<p>①魚類養殖：赤潮対策による赤字解消、道の駅かまえ、かまえインターパーク、佐伯、鶴見の魚市場等での販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な漁場の観察や餌止め、漁場の避難等の対策により赤潮被害を軽減する。また、近隣市場やかまえ道の駅での直販イベント等、地元水揚げの養殖ブリ・ヒラメ・カンパチ等の販売促進活動を継続する。</li> </ul>
--------------	--

	<p>②イワガキ・ヒオウギガイ養殖：蒲江祭りや東九州大漁祭で実施する直販イベントによる販売量増加と単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高単価で販売できる直販イベントに出荷するイワガキの割合を向上させる。</li> <li>・冷凍品を出荷する。</li> </ul> <p>③1本釣り漁業：主要魚種アオリイカの活魚出荷 単価が高い活魚出荷の割合を向上させる。</p> <p>④潜水：藻場保全活動による藻場の回復と漁獲量向上 水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により、毎年 2ha の藻場面積の増加を図る。あわせて、食害生物の駆除を定期的に行い藻場の保全を図る。</p> <p>⑤刺網：未利用魚の利用、主要魚種カワハギの鮮度保持 ブダイ、アイゴ、タカノハダイ、イスズミ等の未利用魚を販路開拓等により販売する。 鮮度保持されたカワハギの高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑥籠：主要魚種マダコの漁獲サイズの向上 単価が高い 1kg 以上のマダコの出荷割合を向上させる。</p> <p>⑦小型底曳き網：主要魚種クルマエビの種苗放流 クルマエビを佐伯管内 3 支店（蒲江、米水津、上入津支店）で 50 万尾放流する。放流後の生存率をより高めるため、給餌による中間育成と食害対策のための放流点周辺の囲い網設置を行い、資源の増大を図る。</p> <p>⑧延縄：主要魚種エソの鮮度保持、出荷時期の調整、すり身の消費拡大、販路開拓 エソの鮮度保持や出荷時期の調整による高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑨大型定置：アジ類の鮮度保持、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷 身擦れ防止、出荷サイズの最適化、活魚出荷等により、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑩小型定置：主要魚種アジ類、アオリイカ、キビナゴの鮮度保持・販路拡大 身擦れ防止、鮮度保持等により、アジ類、アオリイカ、キビナゴの単価を向上させる。</p> <p>⑪中型旋網：主要魚種キビナゴ、アジ類、イワシ類の販路拡大、出荷サイズの最適化、鮮度保持 出荷サイズの最適化、鮮度保持等により、キビナゴ、イワシ類、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑫小型旋網：主要魚種キビナゴの販路拡大、出荷サイズの大型化、鮮度保持 販路拡大、出荷サイズの大型化等により、キビナゴの単価を向上させる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>◆燃油高騰対策に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からの構成員全員による 2 ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。</li> </ul>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業
-----------	--

5年目（令和5年度）（2023年度）所得17.15%向上

漁業収入向上のための取組	<p>①魚類養殖：赤潮対策による赤字解消、道の駅かまえ、かまえインターパーク、佐伯、鶴見の魚市場等での販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な漁場の観察や餌止め、漁場の避難等の対策により赤潮被害を軽減する。また、近隣市場やかまえ道の駅での直販イベント等、地元水揚げの養殖ブリ・ヒラメ・カンパチ等の販売促進活動を継続する。</li> </ul> <p>②イワガキ・ヒオウギガイ養殖：蒲江祭りや東九州大漁祭で実施する直販イベントによる販売量増加と単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高単価で販売できる直販イベントに出荷するイワガキの割合を向上させる。</li> <li>・冷凍品を出荷する。</li> </ul> <p>③1本釣り漁業：主要魚種アオリイカの活魚出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単価が高い活魚出荷の割合を向上させる。</li> </ul> <p>④潜水：藻場保全活動による藻場の回復と漁獲量向上</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により、毎年2haの藻場面積の増加を図る。あわせて、食害生物の駆除を定期的に行い藻場の保全を図る。</p> <p>⑤刺網：未利用魚の利用、主要魚種カワハギの鮮度保持</p> <p>ブダイ、アイゴ、タカノハダイ、イスズミ等の未利用魚を販路開拓等により販売する。</p> <p>鮮度保持されたカワハギの高単価魚の出荷割合を向上させる。</p> <p>⑥籠：主要魚種マダコの漁獲サイズの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単価が高い1kg以上のマダコの出荷割合を向上させる。</li> </ul> <p>⑦小型底曳き網：主要魚種クルマエビの種苗放流</p> <p>クルマエビを佐伯管内3支店（蒲江、米水津、上入津支店）で50万尾放流する。放流後の生存率をより高めるため、給餌による中間育成と食害対策のための放流点周辺の囲い網設置を行い、資源の増大を図る。</p> <p>⑧延縄：主要魚種エソの鮮度保持、出荷時期の調整、すり身の消費拡大、販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エソの鮮度保持や出荷時期の調整による高単価魚の出荷割合を向上させる。</li> </ul> <p>⑨大型定置：アジ類の鮮度保持、出荷サイズの最適化、小型魚の活魚出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身擦れ防止、出荷サイズの最適化、活魚出荷等により、アジ類の単価を向上させる。</li> </ul> <p>⑩小型定置：主要魚種アジ類、アオリイカ、キビナゴの鮮度保持・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身擦れ防止、鮮度保持等により、アジ類、アオリイカ、キビナゴの単価を向上させる。</li> </ul>
--------------	---

	<p>⑪中型旋網：主要魚種キビナゴ、アジ類、イワシ類の販路拡大、出荷サイズの最適化、鮮度保持 出荷サイズの最適化、鮮度保持等により、キビナゴ、イワシ類、アジ類の単価を向上させる。</p> <p>⑫小型旋網：主要魚種キビナゴの販路拡大、出荷サイズ的大型化、鮮度保持 販路拡大、出荷サイズ的大型化等により、キビナゴの単価を向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>◆燃油高騰対策に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。</li> </ul>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業

(5) 関係機関との連携

<p>国の事業を積極的に有効活用し、大分県、佐伯市、大分県漁業協同組合本店・各支店と緊密に連携して事業を行う。</p>
---

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準所得	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ヒオウギ貝・岩ガキの 冷凍品販売 (単位:t)	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
① 漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。
② 水産多面的機能発揮対策事業	漁業者グループが磯焼け対策等の保全活動を実施することで、藻場造成を図り資源増加を図る。
③ 水産業強化支援事業	当地区内の直販所の整備を図り、高鮮度販売による魚価向上からなる漁業所得の向上を図るほか、養殖貝用冷凍施設や漁場監視用ドローンの整備により、赤潮・貝毒による所得への影響を緩和する。